大阪教育大学における教員養成フラッグシップ大学
５年目評価結果について

令和８年 11 月 16 日
中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会
教員養成フラッグシップ大学推進委員会

1. ５年目評価の結果

S 評価：指定期間５年間をとおして、毎年成果を積み上げながら確実に取組を進めていることが特筆できる。教員養成の在り方の変革等を牽引する役割を大いに果たせると期待できる。

2. ５年目評価における４大学に係る総論

○　教員養成フラッグシップ大学に指定され５年を迎える。４大学それぞれにおいて、大学の状況や特長を生かして取り組むなかで、特例を活用した先導的科目・カリキュラムを５年間で着実に実装し、制度趣旨の先導的・革新的な教員養成プログラム教職科目の研究・開発からモデルの提示まで十分に達成されたと評価できる。

○　単なる科目提供や単位互換にとどまらず、連携 FD、コンソーシアムやアライアンス、コンサルテーション及び共同研究等にあげられるように、受入先大学の主体性を引き出しつつ連携の実質化を図る、多様な展開手法を創出した点が成果としてあげられる。

○　独自の自己評価尺度やルーブリックの開発、教育体験・実習との接続等、学生の成長実感や変容を多角的に捉える効果検証の枠組みが整いつつある。現状では、新課程の卒業生が輩出されていないため、引き続き全体の効果検証（教育実習先・勤務先となる学校・旧課程の比較等）を図られたい。

○　中央教育審議会における教職課程や教員免許制度の改革の検討動向との整合性を確保しながら、教職課程において共通で学ぶべき内容と、各学生の強み専門性として体系的に位置付ける学修内容について整理し、その具体的な在り方を示すことや、改革後の教職課程における新たな学習事項に係るコアカリキュラムの検討等において教員養成フラッグシップ大学としての知見を提供することが期待される。

○　今後は、教員養成フラッグシップ４大学協議会での連携・協働を一層強め、「教員養成フラッグシップ大学」総体として、日本の教員養成の在り方の変革等を牽引する役割を果たしていくことを期待したい。また、例えば指定大学から他大学への単位互換を用いた科目の提供や教員の派遣など、実務面において先導的科目・カリキュラムの普及を行うことも期待される。

3. 大阪教育大学の評価に係る委員会助言

○　教員養成フラッグシップ大学として設定した明確な教師像のもと、ダイバーシティの観点に基づく多重・協働による省察型カリキュラムを基本理念とする５年間の取組を通して開発した、新たな授業科目の教育効果が確実に現れているとともに、その実施を担う学内外の組織も有効に機能していることが高く評価される。

○　ＤＰと整合する形で科目の開発・実施を行い、各教科の指導法等の単位数を減じる一方で、共通部分のオンデマンド化と対面での実践的指導を組み合わせるハイブリッド設計をおこなったほか、全学的なＦＤシステム（自己評価参加率 90%超）を通じて大学教員の授業観転換と質の維持を試みた点が評価できる。

○　全国初となる教育課程特例の認定を受けて札幌大学へのオンデマンド科目提供を開始したほか、大阪工業大学、公立千歳科学技術大学とも特例認定を受ける等着実に波及させた点が特筆できる。

○　科目提供を先行的に実施してきたからこそ、横展開の可能性に関する知見の整理が望まれる。そのうえで、他大学でも活用可能な形への汎用化が望まれる。

○　今後は、教育実習後に予定される旧課程履修者との比較調査を通じた新課程の効果の確認とあわせて、他大学に向けた人的・財政的リソース不足等も踏まえた教員養成の維持・持続可能性のための支援に加え、教員養成の在り方の変革そのものを展開する枠組みの明確化を期待したい。